

「作品の結末は、最も読者の関心をひくところだ」とよく言われます。あなたの学習した作品（二つ以上）において、作者は作品の結末を効果的にするために、どのような工夫をしているか、述べなさい。

(Japanese A1 Higher level Paper 2 ,IB0 ,16 May 2007.)

DP Japanese 受験者は、こうした設問から一題を選び、2時間をかけて論述します。

こうした違いは、単に採点業務の効率化だけの問題ではありません、国語の学力観に関わる本質的な問題を含んでいるのではないのでしょうか。日本の国語では文学作品を「正確に理解する」対象として捉えるが故に、「正確な解説を選択肢から選び取ればいい」となります。しかし、DP Japanese では文学作品を「批評する」対象として捉えるが故に、「文学的技法を用いて独自の批評的見解を組み立てる」ことが求められるのです。

第二に、授業形態の違いです。いわゆる「講義式」の形態が多い日本の一般的な国語の授業に対し、DP Japanese の授業では、生徒があらかじめ分担されたテキストの該当部分を分析・発表する形態で授業が進行します。発表者以外の生徒も、テキスト分析が宿題として必須となります（教科書はなく、文庫本一冊をまるごとテキストとして扱います）。発表者の提案を受け、生徒は自分の読みと比較し質問や意見を出し合い、どの読みが妥当かをめぐり活発な意見交換を行います。こうした授業の積み重ねがあるからこそ、さきほどのDPの試験問題にも立ち向かえる学力が養成されるのです。

以上の例を比較するだけでも、IBDPの優位性は際立つでしょう。IBDPは世界有名大学への入学資格を得るためのプログラムですが、それ以上に二言語を駆使して高度で卓越した読解力・思考力を徹底的に伸ばすことが可能な世界最先端の教育プログラムなのです。

### 岩崎 成寿 (いわさき なるひさ)

立命館宇治中学校・高等学校  
高校教頭 / 国語科教諭

「白藍塾」との提携による小論文教育プロジェクトの責任者を務める。

また、「科学的『読み』の授業研究会(読み研)」運営委員として、自立した読みの力を育てる国語科教育のあり方を追究している。http://www.yomiken.jp/



### 立命館宇治中学校・高等学校

〒 611-0031 京都府宇治市広野町八軒屋谷 33-1

TEL : 0774-41-3000 FAX : 0774-41-3555

HP : www.ritsumei.ac.jp/ujc E-mail : uji-returnee@ujc.ritsumei.ac.jp

### IB 認定された「一条校」として日本の教育に新風を

日本のIB教育の歴史は、これまで主としてインターナショナルスクールが担ってきました。現在、国内では14校のインターナショナルスクールがIB認定を受けています。一方、「一条校」(学校教育法第一条に定められた学校。インターナショナルスクール等を除く、いわば「普通の学校」)ではそれまで1校のみだったのが、昨年だけで本校を含めた3校が新たな認定を受け、現在4校となっています。これからIB教育の流れが「一条校」の中で広がっていくことが予想されます。本校はその先駆けとして本校独自のIB教育を展開し、日本の教育に新しい風を吹かそうと考えています。

その具体化として、昨年来、「IB教育フェア」(2009年9月26日、於・本校、231名参加)、「第1回IB Japanese Fair」(2010年1月23日、於・本校、45名参加)を開催し、国内のインターナショナルスクールやIB認定校の協力を得て、ネットワークづくりをすすめてきました。

先日の「第1回IB Japanese Fair」は、国外・国内のインターナショナルスクールでJapanese(日本語)科目を教える先生方が一堂に会する画期的な場となりました。当日は、IB Japaneseを担当する5校の先生方から報告をいただき、活発な意見交換や実践交流を行いました。アメリカンスクールインジャパンの内藤満地子先生をはじめ、サンモールインターナショナルスクール、大阪インターナショナルスクール、清泉インターナショナルスクール、広島インターナショナルスクールからの優れた実践報告には大きな刺激を受けました。

一般参加された先生方からは、「とても有意義だった」「今後このような機会を持ちたい」との圧倒的な声が寄せられ、他日を約して閉会しました。

今後は、IB Japaneseだけにとどまらず、TOK(Theory of Knowledge=知識の理論)やCAS(Creativity, Action, Service=創造性・活動・奉仕)と呼ばれるIBの独自科目にもスポットを当て、これまでインターナショナルスクールの世界にとどまっていたIB教育の優位性を学ぶとともに広く普及したいと考えています。ご期待下さい。 以上



岩崎先生は国語の先生なので、試験問題と授業形態を例にした説明が明確で、国語とIB Japaneseの違いがよく分かります。

「正確に理解する」国語には「正解」があるが、「独自の批判的見解を組み立てる」IBでは「自分の意見」が答えとなります。また、「卓越した読解力・思考力を徹底的に伸ばすこと」というIBDPの学力観では、「正解」を見つけ出す技術ではなく、「読み取り・考える」ステップとスキルを身につけることが重要視されます。

その学力観故にIBDPが「世界最先端の教育プログラム」ならば、それと同じトレーニングを現地の学校で受けているお子さんは「宝」です。現地校での教育の、帰国後のさらなる伸張のチャンスとなります。

立命館宇治のIB教育への取り組みをチャレンジを応援します!